

## 北海道在住の人気テキスタイル作家「点と線模様製作所」が 映画『ぶどうのなみだ』にあわせた限定商品をパルコで販売！

「bull de savon (ビュルデサボン)」との映画コラボ商品販売！

渋谷パルコ・福岡パルコにて

株式会社パルコの自主編集ショップ【渋谷「Meetscal<ミツカル>ストア by once A month」/福岡「once A month」にて、10月11日より公開する大泉洋主演の映画『ぶどうのなみだ』の公開を記念した北海道のライフスタイルを提案するセレクトショップ「nord(ノルド)」を開催いたします。

それにあわせ、北海道在住で全国にファンをもつテキスタイル作家「点と線模様製作所」と人気の衣料品ブランド「bull de savon(ビュルデサボン)」がコラボした限定商品を販売いたします。

是非貴媒体でのご掲載のほどよろしくお願い申し上げます。



北海道を拠点に活動する「点と線模様製作所」と、(株)アンビデックスの人気ブランド「bull de savon (ビュルデサボン)」が今回の企画のためにコラボレーションしました。ぶどう畑とキツネを描いた“キツネの小道”のテキスタイルをもとに、ワインバッグ(¥3500+税)やワンピース(¥20000+税)他全4型を販売します。

(商品詳細は次頁をご確認ください)

### <点と線模様製作所>

2008年から北海道を拠点に模様作り、生地作りを始める。身近な自然の風景や、記憶の中の情景などを題材に模様を考え生地を製作。生地の切り売りを軸にしながら、作る楽しさにつながる生地を提案している。アパレルブランドとのコラボレーションは今回が初となります。



### 映画『ぶどうのなみだ』

監督・脚本：三島有紀子(「しあわせのパン」) 出演：大泉洋/安藤裕子/染谷将太 ほか  
10月11日(土)～渋谷シネクイント(渋谷パルコパート3・8F)ほか全国ロードショー！

©2014『ぶどうのなみだ』製作委員会



【商品名】「点と線模様製作所 × bull de savon」

【販売場所・イベント会期】

渋谷「Meetscalストア」(渋谷パルコパート1・1F) 2014年10月10日(金)～11月9日(日)

福岡「once A month」(福岡パルコ・1F) 2014年10月11日(土)～11月12日(水)

パルコシティ(オンラインモール) <http://www.parco-city.com/shop/shonc345/shonc345> ※10月10日～

【ショップ概要】パルコが運営するセレクトショップ。毎月1回、企画にあわせて商品が入れ替わります。

【ショップHP】<http://www.parco.jp/onceamonth/>

【 本件に関する報道関係のお問合せ 】

株式会社パルコ 新規プランニング部 担当：鈴木 TEL:03-3477-5788 MAIL:suzu-miho@parco.jp

## <Press Release>

1, 「ワインバッグ」 ¥3500+税  
ワンサイズ NAVY/WINE 2色展開



○ワインを入れて気の利いたギフトに。  
もちろん自分用に使っても!

2, 「トートバッグ」 ¥4500+税  
ワンサイズ NAVY/WINE 2色展開



○日々のお買い物に便利なサイズ。バゲット  
や大き目のカンパニューも入ります。

3, 「ワンピース」 ¥20000 + 税  
ワンサイズ・ NAVY/WINE 2色展開



○テキスタイルの可愛さを存分に活かした長め丈のワン  
ピース。  
ウエスト部分の前結びと、背中中の共布ボタンがアクセント。  
インナーにタートルネックのセーターをあわせても素敵。

4, 「スカート」 ¥16,000 + 税  
ワンサイズ・ NAVY/WINE 2色展開



○ひざ下丈のふわっとしたシルエットのスカート。  
左側部分はめくれるデザインです。  
ウエスト部分はゴムなので楽ちんです。  
ポケットもポイントに。

【 本件に関する報道関係のお問合せ 】

株式会社パルコ 新規プランニング部 担当：鈴木 TEL:03-3477-5788 MAIL:suzu-miho@parco.jp

## 点と線模様製作所／デザイナー 岡理恵子さんへのインタビュー（弊社HPでも公開中です）

## 点と線模様製作所・・

2008年、デザイナーの岡理恵子さんが北海道を拠点にスタートしたテキスタイルブランド。

岡さんは、北海道東海大学大学院 芸術工学研究科卒。在学中にウィリアム・モリスの壁紙を木版で再現して模様の構成や作り方を学び、オリジナルの「北国の壁紙模様」の制作をスタート。

室内の壁紙や手作りの材料など”暮らしの中でともに過ごしていける模様”を提案する。

—岡さんはずっと北海道に住んでいるんですね。

「はい。高校までは札幌で、大学は旭川で過ごしました。その後は小樽の郊外に10年近く住んでいます」

—模様の制作を始めたきっかけは？

「もともと大学で空間の設計を勉強していましたが、最後の卒業制作の時に空間を飾るためのカーテンを作りたいと先生に相談したところ、模様の勉強を作るなら一度貼ったら簡単にははがせずに、その中で長く時間を過ごす空間の一部となる壁紙を作ると、模様の基本が勉強できると勧められました。そのことがとても納得できました。

それまで空間の勉強をしてきた自分でも、それをいかしながら、自分なりの模様作りを勉強できるかもしれないととてもワクワクしました。

住む人が自分の手で空間を変えられる、暮らしとともに過ごしていける模様作りをしたいんだとモリスなどの本を読むごとに気付いていきました。壁紙もとても好きな素材ではあるのですが、模様をより身近に使うために用途の広い布に素材を広げました」

—北海道を拠点にすることで、作品にどんな影響がありますか？

「今住んでいるところは、小樽市内から30分ほど離れた山の麓なんですけど、家の窓越しに見える風景や、葉っぱの擦れる音、雨の音など、風景や植物など身の回りにあるものすべてが作品の題材になっています。題材を探しにいくというよりも、日常の中から生まれることが多いですね」

—北海道の暮らしの中でインスピレーションを得ているんですね。

「そうですね。学生時代にウィリアム・モリス（イギリス人のデザイナー）に影響を受けたんですが、モリスは自宅の庭の植物や周りの自然からモチーフを見つけていて、自然を通して物作りをするという部分に共感して。

その場所に想いがあるから良いものができるし、そういう気持ちで模様を作りたいと思っています」

—岡さんにとって北海道の魅力はどんなところにありますか？

「粹や境界のない、とっばらわれた風景というか…。大自然の中に街が点在していて、開拓者精神が根付くしがらみのない場所というイメージ。そんなのびのびとした空気や雰囲気が好きですね」

—他の場所に移動しようと考えたことはありますか？

「…あまりないですね（笑）。作品の題材もありますし、例えば北海道を初めて旅した人が、初めてのものに会う面白さや驚きがあったほうがいいなと。

今はすべてがーか所に集約されがちですが、逆につながりすぎないほうが、見つけた時の感動や、まだ見ぬ物や場所への想像する力が強くなるのではないかなと思っています」

—ありがとうございます。最後に、今回の渋谷・福岡PARCOでの展開を教えてください。今回はアパレルブランド「ビュルデサボン」とコラボした洋服や小物が登場するそうですね。

「公開される映画『ぶどうのなみだ』の内容を聞いて、ぶどう畑とキツネを描いた模様「キツネの小道」のテキスタイルをメインにしよう決めました。ぶどう畑はとても北海道らしい風景。なぜキツネかというと、ある朝起きたら、積もった雪の上に狐の足跡がついていて。姿は見えないけれど、夜には動物だけの時間帯があるんだと知って（笑）。そのキツネの目から見た、北海道の風景をイメージしながら描いたものです」

（インタビュー&テキスト：渡辺真紀子）